いの流水俳壇

「程野紅葉吟行句会」

友草　水月　選

昨日まで降り続いていた雨も今朝は晴れあがり、冬晴れの青い空。暦の上（11月8日立冬）では冬に入った。予定の時間に工芸村を出発する。仁淀川に沿った国道194号を走る。川は青く澄み切っており、出来地で仁淀川本流と合流する上八川川に沿って走る。

深秋や仁淀ブルーのなお深し　小野川町子

落ち合うて川の名かわる紅葉かな　間　浩太

吾北に入ると急に流れも小さくなり岩の川原となる。昭和23年私が上八川小勤務の頃、児童たちと魚取りに行ったものだが、川筋の四箇所に発電所ができ、ダムと遂道で水を取水するので谷川には水が少なく昔の面影はない。思地（おもじ）バス停で参加者が一人乗車。間もなく国道から離れて程野道に入る。道は狭く対向車とのすれ違いもやっとである。車は右に左へと大きくカーブして山腹を登って行く谷川沿いの紅葉が美しい。やがて空が開け程野に着く。程野の滝の上にある展望台に行き見下ろす山々の紅葉と緑のバランスが映えて美しい。

空の青渓の深さにある紅葉　小野川町子

谷川の淀みに浮かぶ散紅葉　川村　博子

程野の滝も樹々に隠れ見えないのは残念。かすかに滝の音が聞こえるばかり。

滝音の樹間に見えてはぜ紅葉

陽のまぶし山粧いて見えぬ滝　友草　水月

青い空程野の滝の冬紅葉　森岡　照月

展望台から引き返してお祭り広場に向かう。平成4年11月1日、皇太子殿下のご臨席を仰ぎ各地から関係者が参加して育樹祭が実施された。今は公園としてイベント広場や斜面には色とりどりの鶏頭やハーブの仲間が満開で、それを囲むように満天星（どうだん）つつじの紅葉が見事である。昨年の11月8日には「ほのほの王国もみじまつり」が実施された。

山道は紅葉落葉のあふれけり　間　浩太

冬紅葉人影なくてバンガロー

名も知らぬ花の千草や大花野　川村　博子

茶屋あれば寄る憩いの草紅葉　小野川町子

空の青満天星つつじ野を染めて　友草　水月

花や紅葉の大花野。ゆっくり車から降りて歩きたい衝動にかられるが、私ともう一人の方は車の窓からの鑑賞である。大花野の公園に別れを惜しみつつ引き返す。程野には大小四つの滝があったと思うがほとんど樹々に隠れて見えないのは残念であった。

冬紅葉帰路の山道駆けぬける　森岡　照月

帰路もまた雑木紅葉の高き山　間　浩太

予定の11時30分工芸村に帰着する。句会のみ参加の方も揃い、離れの日本間で昼食の懇親会を兼ねての宴会である。

工芸村には三棟の蔵がある。農家の蔵を移築したもので白壁が冬晴れの下で美しい。

白壁の蔵の日差しも冬の色　竹崎たかひろ

紅葉狩りの思い出

今は夢むかし遊びし紅葉谷

紅葉谷赤いドレスで赤い橋　岡村　嘉夫

吟行の思い出栞る渓紅葉　森岡　照月

からからと風の吹き寄す里紅葉　刈谷　志津

当季雑詠

守護神の祀られている冬の滝　竹崎たかひろ

晩秋の敵も味方もない宿

秋遍路二回目を行く便りかな　丈川　節弥

母の手に温み握るや七五三

捨て植えの菊の盛りや老の庭

薪割りのこだま聞こゆる冬仕度　國田　貞子

伸ばす手をするりするりと零子落つ

今日生きてさらに明日へと葱刻む　刈谷　志津

偲ばるる明治の佳人十三夜　津田　久美

息を呑む一瞬のこと流れ星

ピラカンサ真赤水面未を映す

吊し柿甘きはまだぞ白鼻心　岡村　嘉夫

狭き庭妙艶競う石蕗の花　森岡　照月

昼食後句会となる。各人三句投句し六句の選句である。11名33句の中から自分の好みで六句を選ぶ。名句あり秀句あり、迷句あり。吟行の場合は同じ場所、同じ物を見て各人が自由に詠むので共通もあるが各自の見方も違い、こんな見方もあるのだなと勉強になる。また吟行句はその場所で短時間に詠むため、集中力が要求される。ひらめいた心眼で詠むのである。

鍛錬句会と言って泊まり込みで晩、昼、朝と三回句会をするのである。集中力の鍛錬である。

苦しみながら詠むのも脳の活性化となり楽しいものである。今回は体調や行事と重なったりで参加が少なかったのは残念であった。

新年明けましておめでとうございます。今年も皆力を合わせて楽しい俳句を詠みたいと思います。よろしくお願いします。

次　題　「当季雑詠」
締め切り　毎月5日

投句先
教育委員会事務局
いの町1700－1
☎893－1922

今月のこども川柳

収穫祭　地域の人と　ふれ合えた　川内小　5年　千田　美空

【評】収穫祭に参加した小学5年生である。日ごろはお話をすることも少ない大人たちとふれ合うことができた。地域の大人たちの優しさや豊かな人間性の中で育てられる子どもたち。子どもたちを素直にすくすく育てられる地域を大切に思います。

運動会　心合わせて　がんばった　枝川小　6年　池澤　弓夏

【評】運動会の季節である。みんな一生懸命頑張ったが、作者は心を合わせて頑張ったところがすてきである。何事もまず気持ち、心である。今のこの気持ちを大切にしながら大人へと成長してほしいと願います。

運動会　空までひびく　声援が　枝川小　6年　佐野　理咲

運動会　つかれた足に　ありがとう　枝川小　6年　林　泰匠

収かくさい　くいのないよう　がんばれた　川内小　5年　西森　光太

運動会　勝っても負けても　たのしいな　枝川小　6年　森本　響生

家族はね　わたしのたから　いつまでも　伊野小　2年　岡田　彩

人生で　大切なのは　友だちだ　川内小　3年　市川　あい

絵や字でも　人の心が　見えるんだ　枝川小　4年　福原　咲

あきかぜが　いつもぼくらを　はげますよ　川内小　3年　市川　あい

「こども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは1月12日（火）です。皆さんからのたくさんの応募をお待ちしています。（応募は各小学校を通じてお願いします。）

※選評は、川柳漣会の皆さんにお願いしています。